

まるで現地留学?! OSGS プログラムの1ヶ月で学び得たもの

高澤美優

OSGS プログラムの1ヶ月を通して感じた第一の感想は、オンライン開催でありながらも現地留学に匹敵するほど毎回ワクワクして学び多く楽しい!ということです。英語を話す機会が多いだけでなく、現地大学の教授が授業を担当していることもあり学術的な内容満載のプログラムと言えらると思います。本レポートでは、これまでの取り組み内容を共有させていただきます。

・グレッグ先生の授業

講義担当のグレッグ先生がとても明るく、他のメンバーも相手の話にしっかりと耳を傾けてくれるので、授業はアットホームな雰囲気です。そのため間違いを恐れずに意見を述べたり質問したりでき、英語での発信力を鍛える良い機会となっています。

これまでの授業ではアカデミックリサーチの方法やアメリカ人とのコミュニケーションの取り方について扱い、最終発表に向けた研究やオハイオ州現地の方々との交流といった今後の活動の準備をすることができました。このように段階を追って成長できる点も本プログラムの魅力だと思います。今後は日米の国民性を個人主義や不確実性に対する態度などいくつかの観点から分析し、それらがコロナ対応にどのように反映されているかを考察していくようです。直近の回（9月15日）では、国ごとの傾向に加えて先生や各メンバーといった個人間の違いも見えて面白かったです。必ずしも国ごとで括ることはできないことを念頭に置きつつ、リサーチを通じてアメリカの文化や価値観の理解に努めたいと思います。

The screenshot shows a Zoom meeting with seven participants in the top bar: Wakana Nishida, Kaho Ishikawa, Miki Yamaoka, Miyu Takazawa, Greg Mott, and Momoko Hasumi. The main content is a slide titled "Individualism vs. Collectivism" with two columns:

| High IDV | Low IDV |
|---|--|
| Indicates a more individualistic society with weak interpersonal connections among those who are not part of core "family" | Indicates a more collectivist society where loyalty to the group and belonging outweighs individual preferences and personalities |
| Places value on people's time, privacy, and freedom | Emphasis on wisdom - building skills and becoming master of something |
| Expectation that individuals are rewarded for hard work, weaker workers may be fired. | Age or seniority admired |
| Ability and knowledge admired | People work for intrinsic rewards (satisfaction, happiness) |
| Ordering/Telling avoidance | Maintaining group harmony (Status Quo) overrides other moral issues |
| | Authority accepted without questioning, little to know conferring with "underlings" |
| | "Face" is protected |

(写真：9月15日の授業の様子)

・フィンドレー大学 学生との交流

9月11日にはフィンドレー大学の学生とオンライン交流し、日米のコロナ対応について大学生活や政治・経済等の観点からディスカッションを行いました。特に興味深かったのは、マスク着用指示に対する考え方です。アメリカでは個人の自由が重視され、政府や学校によるマスク着用義務化に反発する人が多いとのことでした。特に理由を考えずに周囲に同調しがちな日本人との差異を感じました。感染症対応策やそれに対する人々の反応といった表面的な違いだけでなく違いが生じる背景を知ることによって、異なる文化や価値観を持つ他者の言動への理解を示し軋轢を防止できるのではないかと思いました。フィンドレー大学の学生は会話を盛り上げるのが上手で、時間が本当にあっという間に経ってしまいました。連絡先を交換したのでこれからもプログラム内外で交流を深めたいです。

・今後の展望

フィンドレー大学側がキャンパスツアーを用意してくれるようなので、埼玉側でも日本の大学生活や地域の魅力を発信していけたらと考えています。そのためにも、国外だけでなく地域の伝統や自然にもより積極的に目を向けていきたいです。